

小中学校のエアコン設置は 普通教室は31年度までに



藤本 岩義 議員

童が7名いた。

小中学校の普通教室は合計67室。小学校53室中5室で9・4%、中学校は14室全て設置済み。

平成30年度中に拳ノ川小、伊与喜小、入野小の計25室に設置。残りは平成31年度に設置する計画。

また、特別教室については前向きに検討する。

問 近年の夏、特に今年の夏は黒潮町でも猛暑が続いた。児童生徒に熱中症等の被害はなかったか。文部科学省も教室にエアコンの設置を呼びかけているが小中学校の現状と音楽室、理科室などの特別教室への設置計画は。

答 藤本教育次長

各学校においては常に健康観察を行っている。その結果、救急搬送までは至らないが熱中症を疑い保健室等で休ませた児

問 避難所に指定されている体育館も被災者の命を守るために冷風扇などの設置ができないか。

答 徳廣情報防災課長

避難所の環境整備等を進めてきたが、暑さ対策はできていなかった。

今後、避難所で快適に過ごしていけるか避難所整備の中で考えたい。

総合戦略

中山間地域の 機能確保は

公益的施設は
負担減考える

問 本年6月に公表された「黒潮町総合戦略」によると、「現在の農業者に支

援を行い、耕作放棄地の発生を防止し、多面的機能を確保する。

農業者の経営意欲を持続させるため、中山間地域における農業生産活動を行う農業者等に対し交付金を交付し、経営の持続・安定化に取り組み」とあるが具体的にどうす

るのか。

中山間では、農業基盤整備で10%負担によりできていた水路の整備などが農地耕作条件改善事業では適用できなくなり、地域整備事業で行うとのことだが負担率25%〜50%では中山間は寂れる一方だが、対策は。

答 大西町長

中山間地域における農地の多面的機能を維持、確保していくために、集落協定に基づく農業生産活動等を行う集落等に支援する中山間地域等直接支払交付金を引き続き活用することにより、農業経営の維持、安定を図っていく。

多面的機能支払交付金と併せた事業継続により耕作放棄地の発生を防止するとともに、農地、農業用施設の適切な保全管理に支援を行っていく。

公益施設（水路等）については、負担金の減額措置の検討を行って議会に示す。

防災対策

河川土砂対策 と残土処理場

確保に
努める

問 各集落から毎年関係する河川の堆積土、砂利除去の要望が多く出されている。昨今のゲリラ豪雨を考えると早急に浚渫（しゅんせつ）工事が必要だ。

しかし、残土処理場が近くにないため、少ない予算で苦慮していると聞く。町で残土処理場を確保すべきではないか。

答 森田建設課長

町内各地区から、多くの要望がある堆積土等をスムーズに取り除くには残土処理場は重要な要素だ。今後、調査を行い住民の皆様のご協力の下、残土処理場の確保に努める。



入野小学校に設置されたエアコン